

本市における

「あいさつの取り組み」

について

(提 言)



平成27年3月10日

十和田市社会教育委員の会議

十和田市社会教育委員の会議は、平成 25 年 9 月 24 日、協議していく内容を本市における「あいさつの取り組み」について、平成 26 年度までの会議で検討していくことで合意した。

十和田市社会教育委員の会議審議経過

平成 25 年 9 月 24 日（火） 第 1 回社会教育委員の会議

- ・ 諮問内容の決定
- ・ 自由討議

平成 26 年 1 月 18 日（土） 第 2 回社会教育委員の会議

- ・ 平成 25 年度構成団体等合同研修会に参加

平成 26 年 3 月 14 日（金） 第 3 回社会教育委員の会議

- ・ 自由討議

平成 26 年 7 月 15 日（火） 第 4 回社会教育委員の会議

- ・ 自由討議

平成 26 年 9 月 12 日（金） 第 5 回社会教育委員の会議

- ・ 平成 26 年度青森県社会教育研究大会に参加

平成 27 年 1 月 27 日（火） 第 6 回社会教育委員の会議

- ・ 提言案のとりまとめ

平成 27 年 3 月 10 日（火） 第 7 回社会教育委員の会議

- ・ 提言案の最終検討

以上の審議に基づき、社会教育委員の会議としての結論を得たので、ここに提言いたします。

はじめに

「あいさつ」は相手の存在を認め、コミュニケーションを取りたいという意思表示を行動として表わしたものになります。一般的にあいさつを示す言葉として「オアシス（運動）」というものがあります。

オ「おはようございます（こんにちは）」：相手の存在を認める意思表示

ア「ありがとう」：感謝の気持ちを示す意思表示

シ「失礼します」：コミュニケーションの終了の意思表示

ス「すみません」：謝罪の意思表示

このようなキーワードを例として、私たちはお互いに、よりよい人間関係を築こうとするきっかけとしてあいさつを交わします。

しかしながら、現代では、家庭や地域社会においてコミュニケーションが薄れ、社会全体のモラルや規範意識の低下が深刻な問題となって久しく経ちます。このような問題解決の手段として、学校の取り組み、地域の連帯感、家庭での習慣など、大人も子どももお互いにできる「あいさつ」「声かけ」への取り組みが考えられます。

現在、各地域、各学校では、「あいさつ」に力を入れているものの具体的な行動を起こすには至っていないところもあります。また、既に行われている地域、学校、家庭にとっては、さらに充実した取り組みが重要であると考えます。

このため本会議では、「あいさつの取り組み」の課題を整理し、家庭、学校、地域などが、具体的に取り組む方向性をまとめたものであり、それぞれの分野での取り組みを推進し、連携することで、社会全体の取り組みとして推進されることを期待するものです。



あいさつとは

人は誰でも、自分の存在を自分で認め、また他人からも認められたい気持ち＝承認欲求を持っています。そのため、朝や帰宅前など、一般的にあいさつを交わすタイミングにあいさつをされないと、自分が相手から軽くみられているような感じや存在を無視されているような感じを受けます。そのため、あいさつは、家庭、学校、職場、地域の仲間として「あなたの存在を尊重し認めている」という姿勢を表現する言葉であり、「協力していこうと思える安心感や信頼感」をつくり出すためのツールとなります。

また、最近では、防犯の役割も担います。あいさつは犯罪を防止し、人と人との絆を深めます。あいさつ運動と関連した防犯パトロールの実施を通して、まち全体で、安全安心の地域づくりを進めることができます。

あいさつは、見ず知らずの人と人が最初に交わす言葉であり、コミュニケーションにおいて、とても重要な役割を果たします。とてもシンプルに簡単な言葉を交わすだけですが、お互いの距離は一気に縮まります。それは、あいさつをすることは心を開いて歩み寄ることだからです。あいさつは、人と人をつなげるコミュニケーションです。



あいさつにおける現状と課題

①家庭において

- ・悪い子どもはいない。大人たちがどのように指導していくかが肝心だと思う。
- ・親が褒め方を忘れている。良さを見つけて褒めてあげることが少なくなっている。
- ・家庭内でのあいさつの有無が、あいさつの定着に差が出るように思う。
- ・子どもの成長に伴って、親からあいさつをしなくなることもある。「慣れ」になっているのではないだろうか。
- ・親からあいさつすることに照れくささを持っている。子どもからあいさつすることを待っているのではないだろうか。
- ・働くまでは環境に合わせてあいさつをすることがあるため、子どもたちは悪くない。親からあいさつをするようにしていきたい。
- ・学校ではあいさつを習慣づけているが、家庭で子どもから親にあいさつをしても親の反応がなかったらどうなるだろう。子どもたちが戸惑いを感じながら成長したら、人を見てあいさつをするようになってしまうのではないだろうか。実際、中学・高校の部活動では、指導に厳しい人にはあいさつをしているが、下校時にはあいさつが少ないという現状もある。

▼家庭内のあいさつは、学校での出来事を話すきっかけづくりにしてほしいが、親が何か知りたい、子どもが何かを知らせたいというきっかけづくりの意識が離れていっている。

▼子どもと接する場において、「スマホを操作しながら」の親がいる。子どもの

目を見て会話を交わすことが大切である。

- ▼あいさつを通して家庭が見える。やはり家庭での教育が大事だと感じる。親が子どもに気を遣いすぎている部分がある。親への支援が必要ではないか。
- ▼大人と子どものあいさつもちろん大事だが、家族の中でのあいさつも大事だと思う。夫婦や兄弟姉妹であいさつができているだろうか。あいさつに対する文化や認識の違いもあると思うが、今後、世界に出ていく子どもたちに、あいさつの必要性を伝えていく必要がある。
- ▼あいさつに関する言葉を使えなかったり語彙が少なかったりする子どももいる。
- ▼親が怒って子どもに接すれば、子どもは怒りやすくなる。親が困ったときの解決例を子育ての先輩方から聞ける場があればよいと思う。
- ▼あいさつは昔から色々なことを話し合われているが、次の段階に進むにはどうしたらよいのかということが課題になっている。特に家庭におけるあいさつをどうしたらよいか。答えは一つではなく、その場に合った対応の仕方を考えていかなければならない。このことは家庭教育の分野での問題だと思われるが、最終的には人間性を育てていくことではないか。「あいさつは心でする」「相手の顔を見てあいさつをする」というようなあいさつの大切さが分かっていたら、大人になっても自然とあいさつができるようになるのではないか。

②学校において

- ・学校では「日本一明るいあいさつを目指す」をテーマに取り組んでいる。
- ・学校では月1回あいさつ運動を実施している。また、スクールサポーターに協力してもらっているため、紹介の場、感謝する場を設けて、顔を知ってもらう機会をつくっている。
- ・朝、校門に立ってあいさつしていると、元気な子どもとそうでない子どもがいる。その背景には家庭があるのではないかと思う。あいさつプラスワンを心がけている。
- ・下校時、必ず校長室にあいさつをするようにしている。次第に子どもから何か発してくるようになった。規範となる子どもに「さわやかあいさつ賞」を設けた。また、観光地でもあるので、声をかけられたときにすぐに逃げられるよう、防犯意識を持つように指導している。
- ・中学校でのあいさつ運動は、個人へ向かうあいさつを指導している。社会の構成員としての中学生ではなく、あいさつができる子、苦手な子という個人へのあいさつ指導が多いように感じる。
- ・あいさつは、学校や家庭、また地域でも長年やってきていることである。学校でのあいさつ運動は、成果が上がってきていると感じる。
- ・高校では、社会人として大切な一つであることを意識し、あいさつに取り組

んでいる。

- ▼子どもの中には、あいさつに恥ずかしさを持っている子もいる。
- ▼子どもからの反応を見ると、自分で考えて話す力が少ない。あいさつの他に
もう一つ何かを要求したい。
- ▼成長に伴ってできることが増えていかなければいけないが、あいさつは減っ
ていく気がする。なぜ減っていくのかが課題である。中学校になっての一番
の問題は「恐れ」が出てくることである。相手から自分がどう思われているの
かを考えている。
- ▼子どもたちに、あいさつができない理由を聞くと、安心して正しいことを正
しいと言える自分になることに恐れがあるように感じる。そこにはモラルや
規範意識も関わってくると感じている。
- ▼高校では実習として、ボランティアガイドをしている。「こんにちは」などの
あいさつはできるが、その先の会話をさぐりつなげることが難しい。

③地域において

- ・地域ではスクールサポーターに協力してもらっている。去年よりは声が出て
いると聞いている。
 - ・南小学区では13ブロックに分かれて、1週間に1回防犯パトロールをしてい
る。子どもたちを待っている間に、あいさつをしていく子どももいれば、知ら
ないふりをして通り過ぎる子どももいる。
 - ・あいさつをしないからだめだ、というわけではない。子どもの性格によると
ころもある。
 - ・地域でも昔から長く住んでいると、知っている人にはあいさつをするが、新
しく入ってきた人への対応は悩んでしまう。大人が声をかけるときの服装（格
好）によっては、不審者に見られる場合もあるので、気をつけなければいけ
ないと思った。
 - ・子どもは、いつも指導されている人にはあいさつをする。人を見てあいさつ
をすることがある。
-
- ▼大人も子どもからどう見えているのかを考える。自分はいさつを先手でし
ているが、子どもの立場ではどう感じているのか気になる。
 - ▼怪しい人に声をかけられて以来、声をかけられるのも、あいさつをするのも
怖くなったりとトラウマになったりする。あいさつや声かけは難しい部分も
ある。
 - ▼大人でもあいさつができない人がいる。職場内や利用者へのあいさつも大切
である。
 - ▼企業におけるあいさつなどでも、やらされるものは長続きしない。

- ▼社会教育や家庭教育において、その場に合ったあいさつの仕方を考えていくことが大切である。



あいさつの取り組みについての提言・意見

①家庭において

- ・家庭でのあいさつは、きっかけづくりである。親子の会話が弾むように、あいさつから糸口を見つけ、次の会話を探るようにする。
- ・子育て感想文といったバイブル的なものがあればよい。先輩方のアドバイスをまとめたものが、家庭を築く上で大きな役割を果たすと思う。
- ・子どもの発達段階において、あいさつは変わってくる。段階における「あいさつの例」を示すものがあればよい。それを参考にしながら、家庭でのあいさつに取り組んでもらうことも必要である。
- ・あいさつをする場面において、使える言葉を忘れていると感じる。「あいさつの言葉」（こんにちは、ありがとうなど）を一覧にするなどして、洗い出してみることも必要である。
- ・朝一番のあいさつから、お互いの調子を察することができる。特に、幼児や高齢者などの体調管理に役立つと思う。相手の調子の変化が早く分かると対応も早くでき、あいさつ後の声かけも変わってくると思う。
- ・家庭でのあいさつは、おろそかにできないたくさんの効用がある。親子間はもちろん、夫婦、兄弟姉妹、祖父母と孫など、家族の誰とでもあいさつできるような環境が整うことが理想である。家庭で話し合い、自らあいさつできるようにしていく必要がある。
- ・毎日会っているから、あいさつは必要がないという意識を持っている人が多いのではないか。家庭の中で、親からあいさつをしているのかを調査してみることも必要である。

②学校において

- ・先生たちから、率先してあいさつをするように心がける。
- ・学校から保護者へ、学校だよりや参観日などで啓発活動をしていく。
- ・PTA活動を通して、みんなであいさつに取り組む場をつくっていく。

- ・あいさつ運動をしたからといって、あいさつが急によくなるわけではないので、小さなことでもよいから実践の場と継続の場が必要だと思う。
- ・中学生、高校生、大学生の若者発信であいさつに関する取り組みができれば、よいものになると思う。
- ・幼稚園、小学校、中学校、高校では、その発達段階におけるあいさつは、よくできていると思う。社会に出てもあいさつができるように、「あいさつは心である」意味を伝えていく必要がある。
- ・大きな声を出せることは、あいさつをすることにもつながる。声を出してコミュニケーションをとることは、自分の生き方にもつながる。
- ・将来的に恥ずかしい思いをしない、させないためにもトレーニングは必要である。
- ・B-1グランプリ（バラ焼キッズ）などの行事を通して、子どもたちに見知らぬ人へ話しかけられるよう練習する必要がある。そこから、「あいさつ」「声かけ」の必要性を考えさせ、人との接し方を伝えていく必要がある。
- ・十和田市の魅力を伝えるなど、何か目的を持ってあいさつをするということにつながればよいのではないか。学校では、修学旅行先で十和田の魅力を伝えるためにパンフレットや特産品の配布などを行っているところもある。人と接する機会が多い活動を市で行っていけばよいと思う。
- ・あいさつや声かけのボキャブラリーは、相手やその場に合わせた話をするといった経験で培われるものである。
- ・高校生活のなかで、就職してから生かせるあいさつが身に付くかは難しいと思う。声を出すことを定期的に行わないと、あいさつはできないのではないだろうか。子どもたちは、大人の言動を見ているので色々な経験を積ませることが大事である。

③地域において

- ・地域も学校の取り組みを理解して、連携しながら取り組んでいくことが必要である。
- ・あいさつをパフォーマンス的（スローガンを掲げるなど）に実施してみたらどうだろうか。あいさつは時間も経費もかからない。地道な活動が今後につながると思う。
- ・あいさつをすることのよさを理解してもらうことが大切である。ただ「あいさつをしましょう」ではなく、することの意味を伝えることが必要だと思う。
- ・地域、家庭にチラシなどを配布して「あいさつの意味」を周知する方法もよいと思う。
- ・あいさつをできる人から、あいさつの輪を広げていってはどうか。あいさつをするのが苦手な人でも、あいさつされるとよい気分になると思う。

- ・子ども、勤労者、高齢者など、そのグループのやり方でできるところからやればよいのではないだろうか。話し合いで見えてくることもあると思うので、ワークショップなどをしていてもよいと思う。
- ・あいさつは相手を察することでもある。相手を見てどのようなあいさつをするか考えさせる必要がある。
- ・子どもたちは、イベントに参加したときにどのようなあいさつをしているだろうか。外でもあいさつできることが本物である。
- ・十和田だから「10の日はあいさつの日」と決めて、市内全体で取り組んでいけば、あいさつ運動のよいきっかけとなると思う。
- ・人と人が向き合う「いい日」という意味も込めて、「11の日はあいさつの日」にしてはどうだろう。
- ・あいさつの標語募集を行い、あいさつの意味や場面、言葉を考えさせてもよいと思う。例「あいさつは 子どもの心を 開くカギ」「一度の勇気あるあいさつが その後の安心をつくる」
- ・十和田市の観光を盛り上げるためにも、観光客にはあいさつとそれに続く声かけを心がけていけばよいと思う。
- ・会釈だけ、笑顔だけで始まるあいさつの仕方もあるが、あいさつと会釈を一緒にやるのが大事である。

④あいさつの取り組みに向けて

家庭でのあいさつを大切にしよう。

PTA活動で、あいさつについて学んでみよう。

家庭・学校・地域で継続して取り組んでいこう。

「会釈」を入れたあいさつをしよう。

あいさつ標語を募集しよう。

「あいさつや声かけ」の言葉を見直してみよう。

「あいさつは
子どもの心を 開くカギ」

十和田市内「あいさつの日」を設定してみよう。



まとめとして

気持ちのよい「あいさつ」は、人と人との心のつながりを深め、その一瞬をその一日をさわやかに過ごすためにとても大切なものです。

出会った人に「あいさつ」をすることは、地域の連帯感を強めます。また、温かなまなざしや笑顔を向けて行う「声かけ」は、相手とのコミュニケーションを深め、思いやりの心を醸成することにつながります。そして、登下校する児童や生徒たちに「あいさつ」や「声かけ」を行うことは、子どもを見守ることになり、犯罪を未然に防止する効果があります。

このように、人と人をつなぐ「あいさつ」は、生涯に渡り生活の中で大切なことです。

そのため、家庭においては、子どもの発達段階に応じたあいさつや声かけを行ったり、家庭内でのあいさつを習慣づけたりすることも大切です。

また、学校においては、あいさつの実践と継続の場を設けながら、あいさつの意味を伝えていくことが将来に役立ちます。

さらに、地域においては、ワークショップなどを行い、近隣の結び付きを広げ、未来につなげていくことが必要です。

それぞれが連携し、地域社会の結び付けを強めることで、子どもたちはのびのびと育つことができます。また、大人にとっても安全で安心な住みよい十和田市を築くために、「あいさつ、声かけ運動」に取り組んでいくことは必要なことです。



【参考資料 1】

発達段階におけるあいさつ・声かけ^{プラス} + 言葉がけ（例）

【あいさつ・声かけ】⇒自発的アプローチ、【言葉がけ】⇒相手との会話から

挨拶 ・ 声 か け	<ul style="list-style-type: none"> ・おはよう（おやすみ） ・さようなら ・ごめんなさい ・いってきます ・一緒に～しよう ・こんにちは（こんばんは） ・ありがとう ・いただきます（ごちそうさま） ・ただいま（おかえり）
乳 幼 児 期 特 徴	<p>乳幼児期は、母親や父親など特定の大人との間に、愛着関係を形成する時期である。乳幼児は、愛情に基づく情緒的な絆による安心感や信頼感の中ではぐくまれる。そして、複数の人とのかかわりを通して、興味・関心の対象を広げ、認知や情緒を発達させていく。また、食事や排泄、衣服の着脱などの自立が可能になるとともに、食事や睡眠などの生活リズムが形成される時期でもある。</p> <p>さらに、幼児期には、周囲の人や物、自然などのかかわりの中から、徐々に、自らと違う他者の存在やその視点に気づきはじめていく。いわば、遊びなどによる体験活動を中心に、道徳性や社会性の原点を持つことになる時期である。</p>
乳 幼 児 期 課 題	<p>乳幼児期の子育ての課題としては、親子関係では、親の子育てへの無関心や放任などの問題から、過保護や甘やかせすぎ、虐待といった多様な問題が指摘されている。さらには、少子化の影響で、子ども同士の地域での触れ合いが減少している問題も見られる。</p> <p>これらを踏まえて、この時期における子どもの発達において、重視すべき課題としては、以下があげられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛着の形成（人に対する基本的信頼感の獲得） ・基本的な生活習慣の形成 ・道徳性や社会性の芽生えとなる遊びなどを通した子ども同士の体験活動の充実
言葉 が け	<ul style="list-style-type: none"> ・すごいね ・えらいね ・できたね ・しようね ・大切だよ ・大好きだよ ・気をつけてね ・助かるよ ・やっていいよ ・大丈夫だよ ・まちがってもいいよ ・やさしいね

学 童 期 小 学 校 低 学 年	挨拶 ・ 声 か け	<ul style="list-style-type: none"> ・ おはよう（おやすみ） ・ さようなら ・ ごめんなさい ・ いただきます ・ 一緒に～しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ こんにちは（こんばんは） ・ ありがとう（どういたしまして） ・ いただきます（ごちそうさま） ・ ただいま（おかえり） ・ 大丈夫 		
	特 徴	<p>この時期の子どもは、幼児期の特徴を残しながらも、「大人が『いけない』と言うことは、してはならない」といったように、大人の言うことを守る中で、善悪についての理解と判断ができるようになる。また、言語能力や認識力も高まり、自然などへの関心が増える時期である。</p>			
	課 題	<p>家庭における子どもの徳育にかかわる課題として、都市化や地域における地縁的つながりの希薄化、価値基準の流動化などにより、保護者が自信を持って子育てに取り組めなくなっている状況がある。さらに小学校低学年の時期においては、こうした家庭における子育て不安の問題や、子ども同士の交流活動や自然体験の減少などから、子どもが社会性を十分身につけることができないまま小学校に入学することにより、精神的にも不安定さを持ち、周りの子どもとの人間関係をうまく構築できず集団生活になじめない、いわゆる「小1プロブレム」という形で、問題が顕在化することが多くなっている。</p> <p>これらを踏まえて、この時期における子どもの発達において、重視すべき課題としては、以下があげられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「人として、行ってはならないこと」 についての知識と感性の涵養や、集団や社会のルールを守る態度など、善悪の判断や規範意識の基礎の形成 ・ 自然や美しいものに感動する心などの育成（情操の涵養） 			
	言 葉 が け	<ul style="list-style-type: none"> ・ すごいね ・ 大切なよ ・ やっていいよ ・ やさしいね ・ すばらしい ・ きれいだね 		<ul style="list-style-type: none"> ・ えらいね ・ 大好きだよ ・ 大丈夫だよ ・ さすが ・ あなたはどう思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ できたね ・ 気をつけてね ・ まちがってもいいよ ・ 頑張っているね

学 童 期 小 学 校 高 学 年	挨拶 ・ 声 か け	<ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとう（どういたしまして） ・ ごめんなさい（すみません） ・ いただきます（ごちそうさま） ・ いただきます ・ いただきます ・ 一緒にやろう ・ いただきます（ごちそうさま） ・ ただいま（おかえり） ・ お先にどうぞ ・ 大丈夫ですか
	特 徴	<p>この時期には、自分のことも客観的にとらえられるようになるが、発達の個人差も顕著になる（いわゆる「9歳の壁」）。身体も大きく成長し、自己肯定感を持ち始める時期であるが、反面、発達の個人差も大きく見られることから、自己に対する肯定的な意識を持たず、劣等感を持ちやすくなる時期でもある。</p> <p>また、集団の規則を理解して、集団活動に主体的に関与するようになり、遊びなどでは自分たちで決まりを作り、ルールを守るようになる。一方、ギャングエイジとも言われるこの時期は、閉鎖的な子どもの仲間集団が発生し、自分の意志に関係なく仲間と同じ行動をとることが見られる。</p>
	課 題	<p>この時期における子育ての課題としては、インターネット等を通じた擬似的、間接的な体験が増加する反面、人やもの、自然に直接触れるという体験活動の機会の減少があげられる。</p> <p>これらを踏まえて、この時期における子どもの発達において、重視すべき課題としては、以下があげられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 抽象的な思考への適応や他者の視点に対する理解 ・ 自己肯定感の育成 ・ 自他の尊重の意識や他者への思いやりなどの涵養 ・ 集団における役割の自覚や主体的な責任意識の育成 ・ 体験活動の実施など実社会への興味・関心を持つきっかけづくり
	言 葉 が け	<ul style="list-style-type: none"> ・ すごいね ・ えらいね ・ できたね ・ しようね ・ 大切だよ ・ 大好きだよ ・ 気をつけてね ・ 助かるよ ・ やっていいよ ・ 大丈夫だよ ・ まちがってもいいよ ・ すばらしい ・ さすが ・ 頑張っているね ・ そうなんだ ・ やさしいね ・ きれいだね ・ あなたはどう思う ・ なるほど ・ そうだね ・ もっとよくなるね ・ よく考えているね ・ 立派だね ・ どうなっているのかな

青年 前期 中学校	挨拶 ・ 声 かけ	<ul style="list-style-type: none"> ・ すみません ・ おつかれさまです ・ 失礼します ・ お先にどうぞ ・ 一緒にやろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとう（どういたしまして） ・ いただきます（ごちそうさま） ・ お願いします ・ 手伝いましょうか ・ 大丈夫ですか
	特 徴	<p>この時期は、思春期に入り、親や友達と異なる自分独自の内面の世界があることに気づきはじめるとともに、自意識と客観的事実との違いに悩み、様々な葛藤の中で、自らの生き方を模索しはじめる時期である。また、大人との関係よりも、友人関係に自らへの強い意味を見いだす。さらに、親に対する反抗期を迎えるなど、親子のコミュニケーションが不足しがちな時期でもあり、思春期特有の課題が現れる。また、仲間同士の評価を強く意識する反面、他者との交流に消極的な傾向も見られる。性意識が高まり、異性への興味関心も高まる時期でもある。</p>	
	課 題	<p>この時期は、生徒指導に関する問題行動などが表出しやすい。思春期を迎えるこの時期の特徴であり、また、不登校の子どもの割合が増加するなどの傾向や、さらには、青年期すべてに共通する引きこもりの増加といった傾向が見られる。</p> <p>これらを踏まえて、この時期における子どもの発達において、重視すべき課題としては、以下があげられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間としての生き方を踏まえ、自己を見つめ、向上を図るなど自己の在り方に関する思考 ・ 社会の一員として自立した生活を営む力の育成 ・ 法やきまりの意義の理解や公德心の自覚 	
	言 葉 が け	<ul style="list-style-type: none"> ・ なるほど ・ よく考えているね ・ どうなっているのかな ・ いい考えだね ・ その調子だよ ・ 何が正しいかな ・ 無駄なことはない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ そうだね ・ 友だちを誘ったら ・ 応援しているよ ・ 何が大切かな

青 年 中 期 高 等 学 校 等	挨拶 ・ 声 か け	<ul style="list-style-type: none"> ・ すみません ・ おつかれさまです ・ 失礼します ・ お先にどうぞ ・ 一緒にやろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとう（どういたしまして） ・ いただきます（ごちそうさま） ・ お願いします ・ 手伝いましょうか ・ 大丈夫ですか
	特 徴	<p>親の保護のもとから、社会へ参画し貢献する自立した大人となるための最終的な移行時期である。思春期の混乱から脱しつつ、大人の社会を展望するようになり、大人の社会でどのように生きるのかという課題に対して、真剣に模索する時期である。</p>	
	課 題	<p>大人社会の直前の準備時期であるにもかかわらず、自らの将来を真剣に考えることを放棄したり、目の前の楽しさだけを追い求めたりする若者が増加している。さらには、特定の仲間の集団の中では濃密な人間関係を持つが、集団の外の人に対しては無関心となり、社会や公共に対する意識・関心の低下といった指摘がある。</p> <p>これらを踏まえて、この時期の子どもの発達において、重視すべき課題としては、以下があげられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間としての在り方や生き方を踏まえ、自らの生き方について考え、主体的な選択と進路の決定 ・ 他者の善意や支えへの感謝の気持ちとそれにこたえること ・ 社会の一員としての自覚を持った行動 	
	言 葉 が け	<ul style="list-style-type: none"> ・ いい考えだね ・ その調子だよ ・ 何が正しいかな ・ 無駄なことはない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちを誘ったら ・ 応援しているよ ・ 何が大切かな

成人期 20代～30代	挨拶 ・声かけ	<ul style="list-style-type: none"> ・すみません ・おつかれさまです ・失礼します ・お先にどうぞ ・私がやります 	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとう（どういたしまして） ・いただきます（ごちそうさま） ・お願いします ・手伝いましょうか ・大丈夫ですか
	特徴	<p>仕事や恋愛・結婚などの出来事を通じて大人への仲間入りを果たし、社会人としてさらに成長する時期である。また、自分自身の充実した職業生活や家庭生活を築こうと努力する時期でもある。</p>	
	課題	<p>この時期は、青年時代から引き継いできた「ありたい自分、自分らしさ」を、一人の社会人として実社会のなかで更に求め、実現しようと努力する。しかし、実際の職業生活や家庭生活のなかでは、そうして自分らしさを追求していくと、どうしても思い通りにならないことや挫折することが出てくる。そうした挫折や失敗体験（あるいはたまの成功体験）を通して、他者への配慮の大切さや人が社会的な存在であることを学んだり、ありたい自分像を修正したりしながら、信念や価値観を再構築することが求められる。</p> <p>これらを踏まえて、この時期において、重視すべき課題としては、以下があげられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己アイデンティティ（存在証明）を社会人としての実生活のなかで修正し、再構築しながら更に完成させていくこと ・夫婦、家族、親友、職場などの重要な関係にある人との親密な関係と信頼関係を築き上げること 	
	言葉かけ	<ul style="list-style-type: none"> ・いい考えだね ・頼りになるね ・無駄なことはない ・実現できそうだね ・成長したね 	<ul style="list-style-type: none"> ・その調子だよ ・何が正しいかな ・うまくいきそうだ ・みんな助かるね ・生き生きしている

中 年 期 40 代 ～ 50 代	挨拶 ・ 声 か け	<ul style="list-style-type: none"> ・ お元気ですか ・ おつかれさまです ・ 失礼します ・ お先にどうぞ ・ 大丈夫ですか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとう（どういたしまして） ・ いただきます（ごちそうさま） ・ お願いします ・ 手伝いましょうか ・ いい天気ですね（季節の挨拶）
	特 徴	<p>加齢にともなう肉体的な衰えが始まり、両親の介護や死別を体験することもある。仕事面では、責任ある役割を任され、家庭においては子どもの巣立ちが起こり、夫婦関係は新たな局面を迎える。人との関係性が変われば、期待される役割も大きく変わり、価値観や信念など、あらゆる面で視点や発想の転換が求められる。</p> <p>この時期、多くの人が人生の目的や価値観について改めて考えることになる。</p>	
	課 題	<p>この時期は、職場や家庭において自分が果たすべき役割が大きく変化していることを理解すると共に、そうした周囲からの役割や期待の変化にうまく対応していく必要がある。これまでのような自己を中心とする社会関係や自らの成長を目指す視点から、部下や他者の成長や社会の発展にいかに関与できるか、といった「新たな視点への転換」などが求められる。</p> <p>これらを踏まえて、この時期において、重視すべき課題としては、以下があげられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さまざまな衰退や社会の変化に対応できるようなバランスのとれた人格と柔軟な考え方を形成すること ・ 自分に期待される役割の変化にうまく対応すること 	
	言 葉 が け	<ul style="list-style-type: none"> ・ さすが ・ 任せられる ・ おかげさまです ・ 信頼されているね 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 尊敬できる ・ 充実している ・ 若々しい

老 年 期 60 歳 以 上	挨拶 ・ 声 か け	<ul style="list-style-type: none"> ・ お元気ですか ・ おつかれさまです ・ 失礼します ・ それは何ですか ・ 大丈夫ですか ・ どちらまで 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとう（どういたしまして） ・ いただきます（ごちそうさま） ・ お願いします ・ 手伝いましょうか ・ いい天気ですね（季節の挨拶）
	特 徴	<p>この時期は、体力的な衰えを明確に意識し、限界を感じ始めると同時に、これまで仕事や子育てに忙しく生きてきた人たちがそれらの社会的な役割を終えて、解放される時期でもある。</p> <p>また、生き方に個人差が大きく反映される。例えば、90歳になっても身体と気力の両面で元気な人、仕事を継続している人、夫婦で共通の趣味がある人など、まさに千差万別である。</p> <p>老年期は、人それぞれの個人差や多様性が生き方に大きく反映される時期である。</p>	
	課 題	<p>この時期は、自分自身のためにも、周りの人のためにも、運動や食事に気をつけながら「健康」に生きることが大切である。また、人は、他者とのコミュニケーションを通して存在感や幸福感、満足感を感じるため、コミュニケーションが減るこの時期は、生きる喜びを感じにくくなる傾向にある。さらに、これまで仕事や子育てに忙しく生きてきた人たちにとってポカッと空洞があいたように感じ、色々な思いが浮かんでくる。それらの思いに自分なりの決着をつけることも大切なことである。</p> <p>これらを踏まえて、この時期において、重視すべき課題としては、以下があげられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康に生きようと努めること ・ 社会とコミュニケーションを持ちながら、社会的（仕事、趣味、地域活動）にも健康であるように努めること ・ 自分らしい人生の仕上げをすること 	
	言 葉 が け	<ul style="list-style-type: none"> ・ 信頼されているね ・ 助かります ・ 楽しんでますね ・ おかげさまです 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若々しい ・ あなたらしい ・ 変わりませんね

【参考資料 2】

青森県環境生活部青少年・男女共同参画課による事業

平成 26 年度 地域声かけ交流促進事業
「あいさつ・声かけ促進キャンペーン」参加・協力校一覧

学校名	団体名・人数	実施日 (11月)	実施時間
三本木小学校	教職員 5 名、防犯ボランティア 10 名 町内会・地域住民 15 名 三本木小地区安全・安心協働活動協議会委員 5 名	4 日 (火) 17 日 (月)	7 : 00 ~ 8 : 00
北園小学校	教職員 2 名、児童 26 名 町内会 10 名 青少年健全育成協議会 10 名	4 日 (火) ~ 7 日 (金)	7 : 35 ~ 7 : 50
東小学校	教職員 32 名、児童 397 名 PTA 322 名 スクールサポーター 14 名 東地区青少年健全育成協議会役員 10 名 東地区体育振興会役員 20 名 町内会役員 22 名 読み聞かせ及び図書ボランティア 15 名 声かけリーダー 奈良さん 安全・安心協働活動協議会 20 名	4 日 (火) ~ 7 日 (金)	7 : 00 ~ 17 : 00
藤坂小学校	教職員 2 名、PTA 役員 3 名 PTA 第 6 学年委員会 10 名 声かけリーダー 中村覚さん	5 日 (水) 6 日 (木)	7 : 15 ~ 7 : 45
洞内小学校	教職員 2 名 リトル JUMP チーム 6 名	4 日 (火) ~ 7 日 (金)	7 : 35 ~ 7 : 45
深持小学校	教職員 2 名、リトル JUMP チーム 5 名 PTA 3 名、地域住民 3 名 防犯ボランティア 1 名	4 日 (火)	7 : 10 ~ 7 : 30
大深内中学校	教職員 13 名 生徒 59 名、保護者	4 日 (火) ~ 7 日 (金)	7 : 30 ~ 8 : 00
四和中学校	教職員 2 名 生徒 2 名	4 日 (火) ~ 7 日 (金)	7 : 30 ~ 7 : 50
東中学校	教職員 2 名 生徒 40 名	7 日 (金)	登校時間

【参考資料3】

ドロシー・ロー・ノルトの詩『子は親の鏡』

- ① けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
- ② とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
- ③ 不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる
- ④ 「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる
- ⑤ 子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる
- ⑥ 親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる
- ⑦ 叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
- ⑧ 励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
- ⑨ 広い心で接すれば、キレる子にはならない
- ⑩ 誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
- ⑪ 愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
- ⑫ 認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
- ⑬ 見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
- ⑭ 分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
- ⑮ 親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
- ⑯ 子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
- ⑰ やさしく、思いやりを持って育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
- ⑱ 守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
- ⑲ 和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

子ども達を励まそう。誉めて育てよう。

十和田市社会教育委員

(平成27年3月現在)

議長	川崎 富 康	十和田市文化協会会長
副議長	秋 田 美智子	行政相談委員
委員	鈴木 仁	十和田市立東小学校長
//	山 内 和 彦	十和田市立十和田湖小学長
//	新戸部 一 弘	十和田市立第一中学校長
//	三 上 幾 子	青森県立十和田西高等学校長
//	程 川 竜 児	十和田市連合PTA顧問
//	高 谷 敦 子	元ガールスカウト日本連盟トレーナー
//	氣 田 信 人	南地区コミュニティ推進協議会会長
//	佐々木 美紀子	家庭教育インストラクター

本市における「あいさつの取り組み」について

発行：十和田市教育委員会スポーツ・生涯学習課

〒034-0392 十和田市大字奥瀬字中平70番地3

Tel:0176(72)2318(直通) Fax:0176(72)3123